

第3回 生涯活躍のまち（伊達市版 CCRC）推進協議会 議事録

【開催日時】 平成29年12月5日（火）10:00～12:00

【開催場所】 伊達市役所保原本庁舎 2階 庁議室

【出席者】（五十順、敬称略）

（委員）

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| ・ 在宅介護支援ネットワークおりの会 | 安部 一雄（代理出席） |
| ・ 福島学院大学 福祉学部福祉心理学科 | 日下 輝美 |
| ・ パナホーム株式会社 分譲事業推進部事業開発グループ | 桑田 和伸 |
| ・ 福島県宅建協会 伊達支部 | 斎藤 信雄 |
| ・ 公益財団法人仁泉会 | 佐藤 欣也 |
| ・ 一般社団法人伊達市観光物産交流会 | 佐藤 聡子 |
| ・ 社会福祉法人伊達市社会福祉協議会 | 佐藤 由美 |
| ・ 株式会社東邦銀行 | 本田 拓野（代理出席） |
| ・ 福島県北地方振興局 | 須藤 幹子 |
| ・ 一般社団法人伊達医師会 | 中野 新一（欠席） |
| ・ ふくしま未来農業協同組合 | 舟山 悦雄 |
| ・ 福島大学 人間発達文化学類 | 牧田 実 |
| ・ 子地区福島信用金庫 | 三浦 哲也（欠席） |
| ・ 伊達市保原地域包括支援センター | 森 美樹 |

（事務局）

- | | |
|-------------------------|--------|
| ・ 伊達市市長直轄総合政策課主幹兼地域創生係長 | 菅野 公宏 |
| ・ 伊達市市長直轄総合政策課主査 | 長谷川 徳也 |
| ・ 伊達市市長直轄総合政策課主事 | 佐藤 卓也 |

（委託事業者）

- | | |
|----------------------------|--------|
| ・ 株式会社三菱総合研究所 | 田村 隆彦 |
| ・ 株式会社三菱総合研究所 | 古市 佐絵子 |
| ・ 株式会社三菱総合研究所 | 村上 崇 |
| ・ エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社 | 武内 めぐみ |

【配付資料】

- ・ 次第
- ・ 資料1 高子地区における事業体制のイメージ
- ・ 資料2 事業者ヒアリング結果
- ・ 資料3 移住促進策の検討内容
- ・ 参考資料1 伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会から本日までの経過
- ・ 参考資料2 今後のスケジュール

1. 開会

- ・ 事務局（菅野）より開会のあいさつを行った。

2. 議事

1. 高子地区における事業主体

① 高子地区における事業体制について

- ・ 事務局（長谷川）より参考資料1、資料1、資料2に基づき説明を行った。
- ・ 舟山委員：アクティブシニアの住居としてサービス付き高齢者向け住宅（以下、「サ高住」）を検討しているとのことだが、高子地区のサ高住には主に要介護の人が入居となり、アクティブシニアが住むというのは違和感がある。
- ・ 事務局（長谷川）：サ高住を選んだ理由は2点あり、建築費用の一部に補助が出ることと行政の医療介護負担の問題である。サ高住の場合、住所地特例により転出前の自治体で医療費と介

護費を負担することになる。伊達市で移住者の医療費や介護費を負担することは負荷が大きく現実的ではない。将来の運営を考慮した結果、サ高住という選択肢に至った。また、「ゆいま〜る」のようにアクティブシニアが住まうサ高住もあり、ターゲットをどのように設定するかにもよると考える。ターゲットを意識した PR を実施することで、アクティブシニアを呼び込みたい。

- ・ 佐藤欣也委員：様々な状態のシニアを受け入れられるとよい。また、若い人もいずれ年をとるため、身体の状態に応じて順番に支援が受けられる仕組み作りが必要であり、その視点からサ高住に特化しなくてもよいのではないか。また、介護を学びたい人に向けた学校ができれば、1つの医療圏として高子地区にまとまりができるのではないか。サ高住に限らないが立地する施設について、他の CCRC 成功事例の要因を分析の上、必要な要件を詰めていくべきである。
- ・ 佐藤聡子委員：入居者を募集についてアクティブシニアの線引はどのように定義するのか。介護が必要な方も含めるのか。
- ・ 森委員：サ高住は、要介護者等介護サービスを必要とする方がいて成立するものである。アクティブシニアのような支援のニーズが薄い人はサ高住でなくてもよいのではないか。もし要介護の方が入りにくい条件であれば、事業者が参入しにくく収益も出にくい。また、サ高住は介護認定や年齢制限により家族と別れて暮らす場合が多い。介護と子育てのダブルケアを持つ人に向けたサービスを検討すべきである。
- ・ 斎藤委員：本事業の金銭面はどうなっているのか。
- ・ 事務局（長谷川）：サ高住は確定事項ではない。現状は土地だけが決まっており、建設するのは確定していない。
- ・ 事務局（MRI）：サ高住は 24 時間の見守りと施設のバリアフリー化の他、居住エリアの広さに関する規定しかない。規定上、アクティブシニアの入居が可能な住宅である。しかし、見守りだけではサービスの利潤を生むことが難しく、実際は介護サービスを提供するサ高住が多い。一方で「ゆいま〜る」のように、入居前からどのような住宅にしたいかを入居予定者も交えて話し合いをし、話し合いの内容が反映された住宅であることを1つの価値としている場合もある。分譲住宅を基本としつつ、サ高住の見守り機能を追加するという仕組みは可能だが、あくまでもサ高住の運営事業者が選ぶ話である。また、サ高住は 60 歳以上を対象としているが、夫婦のどちらか一方が条件に該当した場合、配偶者も一緒に入居することができる。50 歳代の入居のニーズがあるかという懸念点はあるが、条件上、アクティブシニアに入居いただくことは可能である。

2. 移住促進策

- ・ 事務局（MRI）より資料 3 に基づき説明を行なった。
- ・ 佐藤聡子委員：今年度は東日本大震災復興応援を目的とした物産展の他に、姉妹都市や交流都市で実施する物産展、提携企業内でのマルシェ開催等を予定している。イベントを活用して PR

をしていきたい。また、伊達市では「ふるさと交流会」という福島県外に転出した人との交流の場があり、参加者に移住の話ができればよいと考えている。その他、ホームページを利用した情報発信や首都圏発着のツアー開催等で市と協力したく考えている。

- ・ 斎藤委員：平成 29 年 12 月 23 日に東京国際フォーラムで「ふくしま大交流フェスタ」を開催する。もし PR 用の資料があれば、配布したいので提供いただけないか。
- ・ 事務局（長谷川）：今まで伊達市で行ってきた移住促進事業は伊達田園回帰支援事業であり、対象者が限定されていた。広く移住者を呼び込む事業は今回が初めてであり、ご提供可能な資料の用意がない。平成 30 年 2 月 4 日に東京で開催する移住セミナーまでには、PR で使用するパンフレットや動画を用意したい。
- ・ 斎藤委員：平成 30 年 2 月にも、「ふくしま大交流フェスタ」のようなイベントを開催予定である。可能であれば、その時点では PR 資料をご提供いただきたい。
- ・
- ・ 森委員：移住を検討している人が知りたい情報と、自治体が発信する情報とが合致していることが必要である。自治体が発信する情報について、移住を検討している人の目線でご意見をいただける首都圏側の協力者が確保できるとよい。
- ・ 須藤委員：移住する人の目線で親身に相談に応じてくれる人がいるかどうか、実際に移住を決めるにあたり大きなポイントとなる。相談員は単純な募集で済む話ではなく、経験値等から選定する必要があり、採用後も育成が必要である。選定した相談員については、PR 動画の中で紹介やメッセージ発信ができるとよい。また、PR 動画中の市民インタビューでは、移住の良い点だけではなく、注意したほうがよい点や実際にあった問題とどのように解決したのか等の情報が含まれていると、現実的で建設的な話として閲覧してもらいやすく、また安心感を与えるのではないかと。
- ・ 佐藤欣也委員：伊達市でなければできないことも PR 要素に含めるべきである。例えば蚕のような、伊達市ならではの歴史や文化など。これらの体験ができるような場所や人材はいるのか。
- ・ 事務局（長谷川）：伊達市の文化としては確かに蚕が挙げられ、貴重な機材も残っている。機材を博物館で展示するという構想は聞いたことがあるが、体験ができるかどうかは不明である。現在も養蚕業を営んでいる方はいらっしゃるの、ご協力いただけるとよい。
- ・ 佐藤聡子委員：あんぼ柿も伊達市ならではの農作物である。例えばヘタ取りから収穫までをツアーで体験できるようにしてはどうか。
- ・ 佐藤由美委員：6 次産業化でタルトを作った事例もある。
- ・ 事務局（長谷川）：平成 29 年 11 月に、市の農政課があんぼ柿ツアーを開催している。参加者の人数や様子について確認する。
- ・ 佐藤由美委員：伊達市は健康づくりに非常に力をいれており、PR 要素として含めるべきである。また、「シェア金沢」のような総合的に分かりやすいネーミングも PR では重要である。

- ・ 佐藤由美委員：コーディネーターは、サ高住に入居する方限定のコーディネーターであるのか、それとも、移住促進を含めたコーディネーターであるのか。
- ・ 事務局（長谷川）：コーディネーターの役割は移住・定住・交流全般であり、人選中である。

- ・ 事務局（長谷川）：平成30年2月4日に移住セミナーを開催予定であるが、次回協議会（平成30年1月19日）でご意見をいただいた場合、移住セミナーまでに反映が間に合わない可能性がある。そのため、次回協議会を待たずに市から随時情報を提供していく。委員の皆様も随時ご意見をいただきたい。

3. その他

- ・ 事務局より参考資料にもとづき今後のスケジュールについて説明を行なった。

4. 閉会

- ・ 事務局（菅野）：

本日はお忙しいところをお集まりいただき、また、長時間にわたり、ありがとうございました。これもちまして、第3回伊達市版生涯活躍のまち運営推進協議会を閉会いたします。

以上